第２学年　国語科　学習の指針（シラバス）

１．教科の目標

（１）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
（２）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
（３）言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

２．学習計画

学期	学　習　活　動	学　習　の　ね　ら　い
1学期	虹の足	・見えている「虹の足」をとおして，見えていない「虹の足」について考える。
	質問する力をつける	・伝え合う内容を検討して，よりよい質問をする。
	タオル	・文学的な表現を通じて語感を磨き，語彙を豊かにする。 ・登場人物の設定の仕方や言動の意味などについて考え，作品を解釈する。 ・少年の気持ちの変化を捉え，表現の効果を考える。
	活用のない自立語	・活用のない自立語のはたらきを理解する。
	新聞の投書を書く	・多様な方法で材料を集める。 ・社会生活の中から題材を選んで書く。
	まちがえやすい漢字	・似た形やまちがえやすい漢字についての理解を深める。
	日本の花火の楽しみ	・図や写真と文章とを関連づけながら内容を捉える。 ・説明の仕方という観点に着目しながら読み比べる。 ・花火の魅力について，筆者の考えを捉え，自分の考えをまとめる。
	説得力のある提案をする	・話の構成を効果的に組み立てて話す。 ・根拠の適切さに注意しながら，意見と根拠を分けて話す。
	敬語	・敬語のはたらきや特徴について知る。
	構成を明確にして手紙を書く	・相手に対して適切に言葉を選ぶ。 ・書く内容を整理し，自分の考えをまとめる。
	話し言葉と書き言葉	・話し言葉と書き言葉の，それぞれの特徴を捉える。
	観点を明確にして伝える	・集めた情報を整理して関係を理解し，適切に活用して課題を解決する。 ・図表やグラフ，写真などを用いて，聞き手にわかりやすく伝える。
	脚本で動きを説明する	・小説と脚本を構成する情報を整理し，それぞれの効果について考える。 ・小説と脚本の違いを理解し，小説を脚本に書きかえる。
	漢字の成り立ち	・漢字の成り立ちについての理解を深める。

2学期	夏の葬列	・人物の描写や人称代名詞に着目し，その役割や効果について理解する。 ・時間の順序に留意し，人物の心情の変化や言動の意味について考え，作品を解釈する。 ・作品の構成や展開，表現の効果について考えを深める。
	敦盛の最期［平家物語］	・登場人物の言動や心情について話し合い，作品の理解を深める。 ・文章の特徴を生かして朗読し，物語に親しむ。
	随筆の味わい［枕草子・徒然草］	・古人のものの見方や考え方に対して，自分の考えをもつ。 ・言葉の意味を正確に捉えながら読み，作者の思いを想像する。
	孔子の言葉［論語］	・表現を確かめながら，内容について自分の考えをまとめる。 ・文章の特徴を生かしながら音読したり暗唱したりして，漢文の表現に慣れる。
	活用のある自立語	・用言の活用と種類・用法を理解する。
	ガイアの知性	・筆者が用いる語句の意味を捉える。 ・筆者の主張と具体的な事例との関係を捉える。 ・自然や知性に対する筆者の考え方について，自分のもつ知識や経験と結びつけ，考えをまとめる。
	短歌の味わい	・情景や心情を掘り起こし，声に出して短歌を読む。
	書写	・行書の筆使いを理解して書くことができる。 ・行書の特徴を理解してかくことができる。
3学期	走れメロス	・抽象的な概念を表す語句の量を増やし，自分の表現に役立てる。 ・人称の変化に着目し，人物の心情や言動の変化を表すうえでの役割や効果を捉える。 ・登場人物や語り手のものの見方や考え方について理解し，自分の考えを深める。
	学ぶ力	・筆者の述べる事実と主張の関係を捉える。 ・本文の「述べ方」や表現の工夫に着目し，筆者の主張を捉える。 ・本文から捉えたことや考えたことを自分の知識や経験と関連づけ，考えを広げたり深めたりする。
	坊っちゃん	・わが国を代表する作家とその作品についてふれ，近代の小説や物語を読む。

3. 評価

項　目	評　価　の　内　容	評　価　の　方　法
知識・技能	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化についての知識及び技能を習得しているか。それらを関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できるか。	○　テスト
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な「話す力・聞く力」、「書く力」、「読む力」を身に付けているか。	○　テスト ○　授業課題（ワークシートや作文課題等） ○　発表や話し合い活動、グループワーク
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。	○　ワークシートの記述 ○　提出課題 ○　発言やグループワークの取り組み等 ○　自己評価・相互評価（振り返りも含む） ※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。

4.「確かな学力」のためのアドバイス

（1）自分の力で文章をきちんと読む習慣をつけましょう。本や新聞を読んで、文章に慣れ親しんでおくことも大切です。

（2）漢字ノートで漢字練習を行い、正しい使い方を身につけましょう。わからない言葉の意味は辞書で調べ、語彙を増やし、普段から話や文章の中で積極的に使うことを意識してください。

（3）学習ワークで内容を振り返りましょう。間違ってもいいので、自分の力で問題を解く努力をし、赤ペンを使って丁寧に答え合わせをしてください。間違えたところは、なぜその回答になるのかを確認してください。

（4）どのような課題に対しても、諦めずに取り組みましょう。粘り強く取り組むことが必要です。